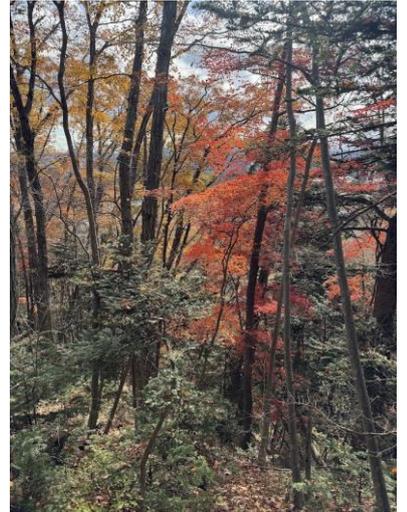


Contents 目次

第1章 仙台市ウォーキングツアー・コース策定にあたり

1. 「ウォーキングツーリズム」とは
 - 1) ウォーキングツーリズムとは …… P2
 - 2) インバウンド観光客の誘客を念頭においた「世界のトレンド」 …… P4
 - 3) 健康と環境への配慮 …… P6
2. 仙台市ウォーキングツアー・コース策定に向けて
 - 1) コース策定の目的 …… P7
 - 2) コース策定の定義 …… P8
 - 3) 仙台市内で開催されるウォーキングイベント
 - 4) 自然環境保全に関する法制度の整理 …… P11
 - 5) 保安林と保護林の違い …… P12
 - 6) 宮城県と仙台市内の自然公園・県自然環境保全地域について …… P13



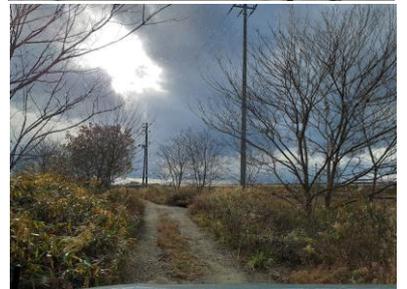
第2章 仙台市ウォーキングツーリズム・モデルコース案

1. コース紹介
 - A. 仙台アルプス …… P17
 - B. 東部沿岸 …… P18
 - C. 秋保 …… P19
2. 各コースの現状と課題
 - A. 仙台アルプス …… P20
 - B. 東部沿岸 …… P22
 - C. 秋保 …… P26
3. 地権者・関係者リスト
 - 1) 調査の実施概要 …… P28
 - 2) ヒアリング実施日
 - 3) ヒアリング実施対象者 …… P29
 - 4) ヒアリングを実施して得られた、該当エリアの地権者・関係者一覧
4. 他地域の事例と比較
 - 1) 宮城オルレ奥松島コース …… P32
 - 2) 上山クアオルト健康ウォーキング …… P34
(コラム：北上the campus) …… P35
 - 3) ふくしま浜街道トレイル …… P36



第3章 仙台市WT・ATビジョン

1. 目指すべき姿と目標設定
 - 1) (仮称) 仙台市観光戦略2027~Into a New Era~に寄せて …… P37
 - 2) 仙台市グランドトラバース構想 …… P39
2. コース確定と誘客に向けてのアクションプラン
 - 1) 仙台市ウォーキングルートは誰が求めているのか? …… P40
 - 2) ウォーキングルートの現地調査と報告会の実施
 - 3) 推進方法の提案と地域ワークショップの実施 …… P41
 - 4) トライアルイベント、シンポジウムの開催
 - 5) 持続可能な運営のための計画策定 …… P42
 - 6) ウォーキングルート開通式典と試歩イベントの開催
 - 7) 重点地域：香港でのプロモーション強化 …… P43
 - 8) 仙台市WT・ATビジョン推進体制と役割 …… P44



第1章 仙台市ウォーキングツーリズム・コース策定にあたり

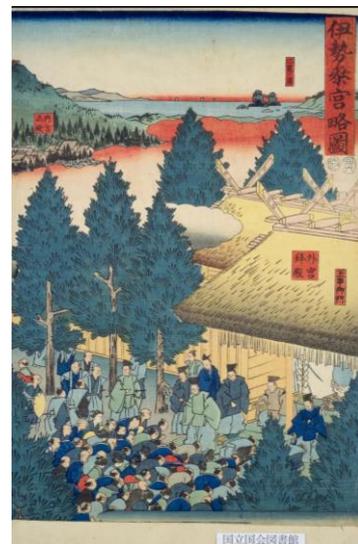


1. 「ウォーキングツーリズム」とは

1) ウォーキングツーリズムとは

「ウォーキングツーリズム」は、観光客が地域を歩いてめぐること、その土地の文化や自然を体験する観光スタイルです。日本のウォーキングツーリズムの起源は、泰平の世となった江戸時代の庶民を一世風靡した「お伊勢参り」と言えるでしょう。

伊勢までは京都から歩いて約5日間、仙台からは30日以上もの道のりですが、皆がこぞって伊勢神宮を目指しました。当時は仲間やご近所の者が集まり、人生一度の旅と覚悟をもって出掛け、伊勢神宮だけでなく、道中にある観光名所や寺社仏閣に立ち寄ることが旅の醍醐味となり、まさに今で言う団体ツアーがカタチ造られて行きました。



▲歌川広重
「伊勢参宮略図并東都大伝馬街繁栄之図」
一部 国立国会図書館デジタルコレクション

戦後の高度経済成長を突き進む日本において、1956年には、日本山岳会はネパール・ヒマラヤにあるマナスル（8,163m）登山隊を編成し、今西壽雄を隊長として派遣しました。登山隊は、厳しい気象条件や高山病と戦いながら数ヶ月にわたる準備と訓練を経て、日本人が到達できた初めての8,000m峰としてついに登頂を果たしました。この成功は日本の登山界において画期的な出来事であり、国民の登山ブームを引き起こすきっかけとなりました。

1964年に初版が刊行された『日本百名山』は、深田久弥が実際に登頂した日本の名峰100座を選定し、随筆形式で紹介した書籍です。瞬く間に登山愛好者の間で話題となったこの本は、山の美しさや登山の楽しさを伝えるだけでなく、登山の難易度や山域の魅力を詳しく解説しています。深田の情熱が詰まったこの作品は、新たな登山ブームの火付け役となりました。

1980年代からは、日本人の誰もが行ける海外登山に関するテレビ番組や雑誌による情報発信により、ヒマラヤ山脈でのトレッキングやスイス・アルプスでのハイキング、南米ペルーのマチュピチュ遺跡を目指すインカトレイルなど、数多くの日本人観光客が海外へ出かけていきました。



2000年代前半、多くの日本人観光客でごった返した「スイス・アルプス」



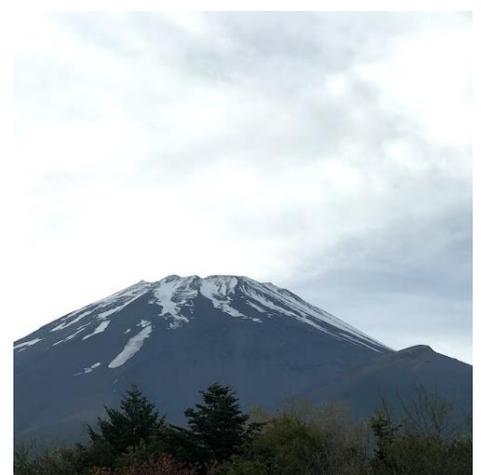
3泊4日のトレッキングツアーでマチュピチュ遺跡を目指す「インカトレイル」



世界最高峰「チョモランマ（エベレストの中国名）」を望むロッジは標高5,000mにある

近年、健康志向のさらなる高まりや地域の魅力をツーリストが自ら発見する動きも相まって、ウォーキングツーリズムは世界中でさらなる人気を集め、日々新たなトレイルが紹介されています。特に自然が豊かな地域や歴史的な名所をめぐるコースが好まれ、国内外を問わず観光客に新たな体験を提供しています。

昨今日本国内のインバウンドマーケットにおいては、入山制限や入山料の収受など、新たな話題が取り上げられる「富士登山」が、注目すべきウォーキングツーリズムのひとつとなっています。



富士山は誰のものか、誰がどう管理するか議論の歴史は長く、課題は根深い

2) インバウンドトラベラーの誘客を念頭においた「世界的なトレンド」

「ウォーキングツーリズム」は、世界中で注目されており、特にヨーロッパでは山岳地帯のアルプスに限らず、世界遺産に登録されたスペインを約800kmの道のりで横断する「サンディアゴデコンポステーラ」や、イギリス北部の「コッツウォルズ・フットパス」など、多くの国で整備されたトレイルが存在し、観光客の誘致による地域経済の活性化に貢献しています。

日本においても、四国遍路や熊野古道、中山道・馬籠宿などにおいて、地域資源を活用したウォーキングイベントやツアーが、長い年月をかけた地道な開発と情報発信を行ってきたことにより、近年外国人観光客にも認知されるようになり、日本観光市場に新たな風を吹き込みました。

宮城県内のインバウンド市場においては、台湾を筆頭に、中国、香港、韓国などアジア圏からの観光客が多く受け入れられています。なかでも台湾には、長距離トレッキングコースの「淡蘭古道」があり、令和5年11月に宮城オルレと「友情の道」に関する協定を締結したことから、さらなる相互交流に期待が寄せられています。一方韓国からの旅行者は、全国的にはコロナ明けから過去最高の訪日数を記録していますが、本県も含めて東北では伸び悩んでおり、新たな仕掛けや仙台市内のウォーキングコース開設が韓国人観光客誘致への起爆剤になるとも言えるでしょう。香港においては2024年12月から順次、仙台空港への直行便が就航されており、「世界一歩く香港人」への新たな観光コンテンツとして、本市にも魅力的なウォーキングコースを造成することは有効であると考えられます。

▼令和6年1月～11月 外国人延べ宿泊数

R6.1～11 外国人延べ宿泊数（観光庁統計データより一部抜粋し、再編集）												
宿泊施設所在地	総計		台湾		中国		米国		香港		韓国	
	宿泊者数	全国比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比
全国	123,119,400		16,611,540	13.49%	22,651,440	18.40%	13,176,030	10.70%	6,880,250	5.59%	16,081,410	13.06%
宮城県	663,570	0.54%	339,430	51.15%	70,420	10.61%	34,200	5.15%	32,830	4.95%	26,660	4.02%
東北運輸局	1,889,260	1.53%	918,160	48.60%	189,760	10.04%	94,410	5.00%	114,550	6.06%	89,530	4.74%
宿泊施設所在地	総計		タイ		オーストラリア		シンガポール		その他アジア		その他欧米等	
	宿泊者数	全国比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比
全国	123,119,400		3,256,300	2.64%	4,985,700	4.05%	3,206,480	2.60%	6,203,110	5.04%	12,273,930	9.97%
宮城県	663,570	0.54%	23,470	3.54%	11,270	1.70%	9,440	1.42%	14,160	2.13%	27,790	4.19%
東北運輸局	1,889,260	1.53%	70,350	3.72%	48,900	2.59%	41,810	2.21%	55,490	2.94%	76,210	4.03%

▼外国人延べ宿泊数3箇年比較

外国人延べ宿泊数3箇年比較（観光庁統計データより一部抜粋し、再編集）						
年度	H31/R1		R5		R6 11月まで	
	宿泊者数	全国比	宿泊者数	対R1比率	宿泊者数	対R1比率
全国	115,656,340		95,027,710	82.16%	123,119,400	106.45%
宮城県	563,010	0.49%	514,580	91.40%	696,830	123.77%
東北運輸局	1,680,190	1.45%	1,428,050	84.99%	1,889,260	112.44%

ウォーキング（ハイキング）コース～台湾・香港～

台湾



合歡山

日の出ツアー-or半日ツアー（清境発）



阿塹壹古道 日帰りツアー（屏東）



淡蘭古道北側道路（燦光寮古道）

台湾には標高3,000mを超える高山が250座以上（日本は21座）あり、九州とほぼ同じ面積の小さな国土に山々がひしめいていることから登山が人気のレジャーである。また、年間70万人訪れる淡蘭古道に代表される「古道」が全土にあることから文化として身につけており、世界中のハイカーにも選ばれる観光地となっている。また、日本のアニメやTVドラマもほぼリアルタイムで放送されており、「聖地巡礼」も日本観光の人気のコンテンツとなっていることから、自然豊かなコースと聖地巡礼コースの造成がインバウンド入れ込みに寄与するものとなる。

香港



薄扶林からピーク（The Peak）へ



ドラゴンズバック（Dragon's Back）



大欖郊野公園



萬宜水庫

香港は大都会だが、離れた場所には大自然を利用した初心者向けのハイキングコースが多々あり、健康志向も高いことから狭い国土のレジャーとしてハイキングが楽しまれている。仙台への直行便が就航したことにより、「未知の場所仙臺」として注目されている現在、旅先のコンテンツとして早期にウォーキングコースを打ち出すことが効果的である。また、平均所得（平均月収約40万円）が高く、纏まった休日も取れることから長期滞在を勧める周遊プランの提案も重要となる。

3) 健康と環境への配慮

「ウォーキングツーリズム」は、国内外の観光客誘致に留まらず、地域住民の健康促進や環境保護の観点からも注目されています。ウォーキングは、心肺機能の向上や筋力の強化、体重管理に効果的で、自然の中を歩くことでストレスが軽減され、メンタルヘルスの向上にも寄与します。住民が自らの生活圏を歩くことで心身の健康を保つことができ、また、公共交通機関や自動車に依存しない移動手段として、環境負荷を軽減する効果も期待されています。そこにウォーキングを目的にした観光客がその地域を訪れることで交流も促されま



美しい景色の中を歩き、心と身体を健やかに保ち続けたいのは、世界共通の願い（スイス）

しかしながら、自然のフィールドを活用する観光行動が環境に与える影響を無視することはできません。特に手つかずの自然を移動するアクティビティは、環境に直接的な影響を及ぼし土壌の侵食や生態系の破壊が進む恐れがあります。また来訪者が増えることで、ゴミの放置や不法投棄などが問題となり、飲食物の包装やペットボトルなどがそのまま残されることも稀ではありません。景観を損なうだけでなく、動植物にも悪影響を及ぼすことも懸念されるため、地域の環境保護活動が求められるようになります。そのため富士山や屋久島など、人気の高い山域では入山料を設定することで観光客の数を制限し、環境への負荷を軽減する試みが以前から行われており効果が期待されています。徴収した入山料は、登山道の整備や環境保護活動に充てられ、地域の持続的な発展にも寄与します。

入山料の徴収に関しては、国内外の観光客をはじめ地域の理解を得ることが重要です。事前に情報を提供し、入山料の目的や用途を明確にすることで全体の理解を得やすくなります。また、多言語対応による案内やサポートを充実させることで、より多くの観光客が安心して訪問できることに繋がるでしょう。環境保護は観光開発において不可欠な要素となり、環境保護とルート管理、入山料徴収に向けての課題解決、外国人を含めた来訪者対応のバランスを取ることが求められます。このような背景から、長い年月をかけて開発を進めるウォーキングツーリズムは持続可能な観光の一環として位置づけられています。

【参考】他地域での入山料

山域	入山料	運用開始
富士山	¥4,000	2025年～
屋久島	¥1,000～	2017年
伊吹山（滋賀県）	¥300	2011年

2. コース策定に向けて

1) コース策定の目的

世界的な自然・健康志向の高まりやサステナブル意識が高揚している中、東北地方では三陸沿岸を約1,000kmに及ぶルートでつなぐ「みちのく潮風トレイル」や韓国、台湾や九州と連携する「宮城オルレ」、山形県や岩手県では健康志向に応じた「クアオルト・ウォーキング」の人気の高まっており、2025年秋には、東北観光推進機構、ATTA※、JNTO（日本政府観光局）が主催する『Adventure Week2025東北』や、宮城県による『アジア・トレイル・カンファレンス（ATC）』の開催が決定しています。

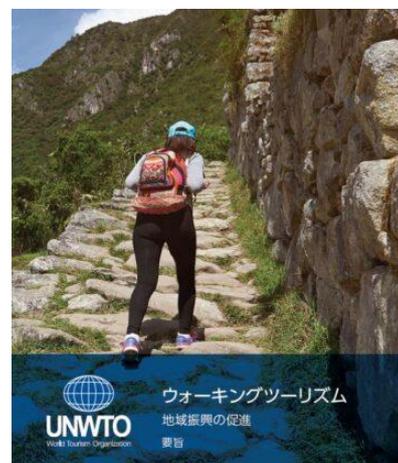
仙台市においても高付加価値な自然文化体験型観光としてのアドベンチャーツーリズム（AT）の機運が高まり、インバウンドに人気のアクティビティコンテンツとして、歩きながらその土地ならではの自然や歴史、文化等を感じられるハイキングやトレッキングへの注目が高まっています。仙台市内には、本市の歴史や文化に触れることができる青葉山エリアをはじめとする中心部エリア、豊かな自然や温泉の癒しを味わえる西部エリア、震災復興を学びながら多様な自然を楽しむことができる東部海浜エリアなど、魅力あふれるコース設定が可能な場所が数多く存在しています。

本報告書は、国連世界観光機関（UNWTO）が示す「ウォーキングツーリズム ～地域の発展に向けて～」を踏まえ、ウォーキングやハイキング、トレッキング、トレイルによるインバウンドをはじめとした観光客の誘客、宿泊促進の可能性を調査するために、仙台市内のウォーキングコース設定に向けた検討を行うものです。

「ウォーキングツーリズム 地域振興の促進」 概要

目的・内容：ウォーキングツーリズムの実践的な成功事例を紹介し、地域発展におけるウォーキングツーリズムの役割を考察

定義：①数時間から1週間程度の滞在であること
②観光客に特別な技術や体力を必要としない
③舗装されていない道路が中心であること



2019年1月発行
(日本語訳：2021年9月発行)

※世界約100カ国から1,400会員を擁する国際的なアドベンチャートラベル業界団体「Adventure Travel Trade Association (ATTA)」

2) コース策定の定義

仙台市が計画する各コースのウォーキングの難易度については、半日～1日かけて歩くことを楽しむものとし、仙台市中心部、東部、西部の各エリアにおいて「歩く旅」を楽しみながらその地域ならではの観光資源も合わせて楽しめるコースを各エリアで提示します。

あわせて、風景に変化があること、舗装道が少ないこと、地域の文化や歴史を感じられること、法人に年間100万円の「名称使用料」を支払うことが求められる、オルレ認定条件を満たすコース設定についても検討します。

3) 仙台市内・周辺で開催されるイベント

仙台市では、健康促進や地域活性化を目的とした様々なウォーキングイベントや自然豊かな環境を活かしたトレイルランニングが盛んに開催されています。主に参加者が楽しみながら健康を意識しつつ、ストレス解消にも寄与し、地域の魅力を再発見する機会を提供しています。これらのイベントについてまとめました。

① 『アルークワーク仙台』ウォーキングイベント

仙台市では、お仕事や暮らし（＝ワーク）の合間に歩く（＝アルーク）取り組みとして「アルークワーク仙台」というウォーキングイベントが定期的で開催されています。2024年には「仙台新港クリーンアップ・ウォーク」のイベントが行われ、晴天に恵まれた新港海岸に113人が集まり、ゴミ集めをしながら約2kmを歩き健康×環境×交流をテーマにしたビーチクリーンが開催されました。



② バディウォーク仙台

「バディウォーク仙台」は、ダウン症の理解を深めるためのチャリティーイベントとして開催されています。テーマは「だれもが楽しめる場所」としており、参加は無料です。イベントでは、マルシェコーナーやステージショーが設けられ、地域の人々が集まり、交流を深める場として賑わいを創出するなか、1時間弱で七北田公園内約800mのコースを1周するイベントは、地域の絆を強めるだけでなく、参加者にとっても楽しい体験となっています。



③ 仙台街フォトログ

「仙台街フォトログ」は、緑豊かな7月に開催される、ウォーキングと写真撮影を組み合わせた新しいスタイルのイベントです。参加者は、都市と歴史・文化・自然が共生する太白区の風情の中、指定されたエリアを約3時間かけて巡りながら、特定のスポットで写真を撮影します。当イベントは、歩くことを楽しむだけでなく、地域の魅力を再発見する機会を提供しており友人や家族と一緒に楽しみながら、健康促進にも繋がる活動となっています。



④ 歩数アップチャレンジ

宮城県では「歩数アップチャレンジ」という取り組みが行われており、仙台市もその一環として参加しています。このチャレンジは、働く人々の健康づくりを応援するために実施されているもので、参加者は自分の歩数を記録し目標達成に励みます。事業所部門と一般部門があり、地域全体での健康意識の向上が期待されている取組です。



⑤ 仙台泉ヶ岳トレイルラン

2024年9月29日に開催された「仙台泉ヶ岳トレイルラン」は、スプリングバレー仙台泉スキー場をメイン会場とし、特設コースで行われました。このイベントは毎年開催されており、体験会から 1km~25kmの種目が設定される初心者から上級者まで楽しめる内容で、参加者に挑戦の機会を提供しています。

⑥ みちのくPARKトレイルラン

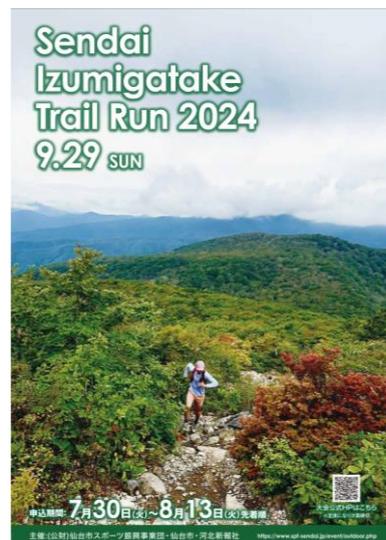
毎年3月に国営みちのく杜の湖畔公園で開催され、3歳から気軽に楽しめる日本一敷居の低いレースイベントと称されるのが「みちのくPARKトレイル」です。春の柔らかな日差しを浴びながら、湖畔公園内遊歩道で爽やかに体を動かすことができ、地域のトレイルランニングの普及に貢献しています。

⑦ 作並温泉トレイルランニングツアー

2024年8月に行われたこのツアーは、作並温泉を拠点にしたトレイルランニングイベントです。参加者は、豊かな自然と歴史文化を感じる作並周辺の美しい自然を楽しみながら、2日間にわたって約20kmのトレイルランニングを体験しました。競技色が弱く観光とスポーツを融合させた新しい形のイベントとして注目されています。

このように、仙台市内では毎年数多くの自然に親しむイベントが開催されており、参加者は楽しみながら健康増進とストレス発散、地域との交流と絆を意識することができます。また自然環境の保護や地域の魅力を再発見する機会にもなり、今後もこの地域の活性化が進むことが期待されます。しかしながら、それぞれのイベントに継続的な参加を促す動機付けや参加者の確保が課題になっているとともに、楽しさや達成感がないと持続するのも難しくなってしまいます。イベントの内容を工夫し参加者が毎回楽しめるよう、新しい要素を取り入れ、参加者のフィードバックをもとに改善を図ることで、より多くの市民に参加してもらうことができる仕組み作りが求められます。

また、日本全国で高齢者の割合が増加しており、対応が必要になっています。高齢者に易しいコース設定やサポート体制の充実に加え、地域連携を強化し、参加しやすい環境を整える努力が続けられています。



4) 自然環境保全に関する法制度の整理

ウォーキングルートの開発やイベントを開催するには、自然環境保全に関する法制度を理解し、遵守することが重要です。自然環境保全に関わる法制度について整理しました。

① **自然公園法**は、1957年に制定された法律で優れた自然の風景地を保護しながら、あわせてその利用を促進することを目的としています。この法律に基づき、国立公園、国定公園、都道府県立自然公園が指定されました。法律の第1条には、国民の健康や休養、教育に寄与し、生物多様性の確保にも貢献することが明記されています。2010年には自然公園法が改正され、国立公園および国定公園内の生態系を維持回復する事業に関する規定が追加され、より広範な自然環境の保護が図られています。この改正により、自然公園法は現代の環境保護のニーズに応えられるよう進化しています。

② **自然環境保全法**は、1972年に制定された法律で、日本の自然環境を保全するための基本的な枠組みを示しています。自然環境保全地域を指定し、自然環境の保全に関する施策を推進し、特に生物多様性の確保を目的として人間活動を適切に管理し、そこにおける開発や利用を制限することで、自然環境を守り続けることを目指します。都道府県自然環境保全地域は、都道府県知事によって指定され、地域の特性に応じた保全が行われます。

③ **都市緑地保全法**は、1973年に制定された法律で、日本の都市における緑地の保全と緑化の推進を目的とした法律です。この法律は都市計画法に基づき、良好な自然環境を形成する地域を「緑地保全地区」として指定し、緑地の保全を図ることを目的としています。特に、都市部においては緑地が不足しがちであるなか、地域住民の憩いの場や生態系の保護が図られ、環境保全や市民の生活の質向上に寄与するために重要な役割を果たしています。その後、2004年には内容が大幅に改定された「都市緑地法」が制定され、「緑地保全地区」は「特別緑地保全地区」に名称が変更されました。



▲富士箱根伊豆国立公園（静岡県公式ホームページより）



▲緑化地域制度の指定対象区域である横浜市
(<https://yokohama.localgood.jp/news/11834/>より)

5) 保安林と保護林の違い

①**保安林**とは、森林法に基づいて指定される特別な森林であり、主に水源の保持や土砂災害の防止、生活環境の向上などの公益的機能を重視しています。これらの機能を発揮することが期待されており、一般の森林以上に特別な保護が求められます。保安林は、農林水産大臣または都道府県知事によって指定され、地域の自然環境を保全するための重要な役割を果たしています。

保安林の主な目的は、自然環境の保全と人々の生活環境の向上です。具体的には水源の涵養や土砂崩れの防止、さらには生物多様性の保護などが挙げられます。これにより地域住民の生活の質を向上させるとともに、自然災害からの防護を図ることができます。

保安林は、特定の公益目的を達成するために管理されます。具体的には、立木の伐採や下草の採取が制限されており、森林の生態系を維持するための措置が講じられています。また、保安林内での開発行為は厳しく制限されており、地域の自然環境を守るための重要な制度となっています。

②**保護林**とは、国有林の一部として指定される森林であり、主に生態系の保護や生物多様性の維持を目的としています。保護林は、原生林や自然林が残る地域に設定され、外部の有識者による管理が行われます。これにより、自然環境の保全が図られています。

保護林の主な目的は、森林生態系の保護と生物群集の維持です。具体的には、希少な動植物の生息地を保護し、自然環境の変化に対する監視を行うことが求められます。保護林は、特に生物多様性の保全に重点を置いており地域の生態系を支える重要な役割を果たしています。

保護林の管理には、森林生態系や野生生物の状況変化を監視し、必要に応じて保護措置を講じることが求められます。これにより、自然環境の変化に対する適切な対応が可能となり、持続可能な森林管理が実現されます。また、保護林内での開発行為は厳しく制限されており、自然環境を守るための重要な制度です。

このように保安林と保護林は、いずれも自然環境の保全に寄与するな制度ですが、その目的や管理方法、制限内容には明確な違いがあります。保安林と保護林を管理する東北森林管理局では、青森、岩手、宮城、秋田、山形の5県にまたがり、530万ヘクタール中約165万ヘクタール（31%）を管理しています。この広大な森林は、国土保全や水源涵養、レクリエーション場の提供など多様な機能を果たしています。国有林管理のため、77万点の境界点を設置し、その総延長は約21,000キロメートルに及びます。この長大な境界線には必ず隣接する所有者が存在し、係争を避けるため双方の合意に基づき適正な管理が徹底されています。

境界は庁舎敷地や官舎敷地、市街地と山間部の林道敷地、民有林境など多様な場所に存在しており、国有林という国民の大切な財産の保全に向けた取り組みが着実に進められています。

森林官は毎年、重要な境界点の現地踏査や目視による境界巡視を実施し、境界検測予備調査で基礎資料を収集しています。森林官は現地説明を通じてリスクを事前に排除する努力を重ねています。

これらの体制や管理活動を理解することでも、より効果的な自然環境保全を念頭に置いたウォーキングツーリズムの開発が可能となります。

6) 宮城県と仙台市内の自然公園・県自然環境保全地域について

① **国立公園**は、管理は環境省が行い、日本国内で特に優れた自然環境や景観を保護するために、国が指定した地域です。国の法律に基づいて管理され、特別な保護措置が講じられています。開発行為や資源の採取が厳しく制限されており、自然環境の保全が最優先されます。宮城県内には三陸沿岸の三陸復興国立公園があります。



▲気仙沼大島（気仙沼市）



▲神割崎（石巻市）



▲金華山（石巻市）

※全て環境省ホームページより

② **国定公園**は、国立公園に準じる形で、特に優れた自然環境を持つ地域を都道府県の申し出をうけて環境大臣が指定したものです。国定公園は、国立公園と同様に自然環境の保護を目的としていますが、指定権限は都道府県にあります。これにより、地域の特性やニーズに応じた管理が可能となります。国定公園も観光やレクリエーションの場として利用されることが多く、地域振興にも寄与しています。宮城県内には栗駒国定公園と蔵王国定公園の2つがあり、蔵王国定公園の一部に仙台市が含まれています。



▲栗駒国定公園（宮城県公式ホームページより）



▲蔵王国定公園（旅東北より）

③ **県立自然公園**は、都道府県知事が条例等に基づいて指定する自然公園で、地域の自然環境を保護し、地域住民や観光客に自然を楽しむ場を提供することを目的としています。県立自然公園は、国立公園や国定公園に比べて規模が小さいことが多く、地域の特性に応じた管理が行われます。これにより、地域の生態系や文化を守りながら、観光資源としての活用が図られています。宮城県内では松島や蔵王高原などがあり、当ウォーキングツアーの策定コース案のなかでは秋保地区の二口渓谷が指定されています。

④ **県自然環境保全地域**は、自然環境保全法に基づいて都道府県が指定する地域で、特に重要な自然環境の保護を目的としています。具体的には、特定の生態系や生物種の保護が重視され、地域住民の生活と調和した形での保全活動が行われます。

当ウォーキングツーリズムの策定コース案のなかでは東部沿岸の仙台湾海浜と仙台アルプスに含まれる太白山が指定されています。



▲蒲生干潟
(日本自然保護協会公式ホームページより)



▲太白山自然観察の森
(仙台市公園緑地協会公式ホームページより)

⑤ **緑地環境保全地域**は、都市部における緑地の保全を目的とした地域で、都市の生態系を維持するために重要な役割を果たしています。この地域では、都市の緑地や公園、自然環境を保護し、地域住民が自然と触れ合う機会を提供します。緑地環境保全地域は、都市の環境改善や生物多様性の保全にも寄与しており、地域の生活環境を向上させるための施策が講じられています。当ウォーキングツーリズムの策定コース案の仙台アルプスのルートに近い蕃山の一部が指定されています。



◀上空から見る蕃山

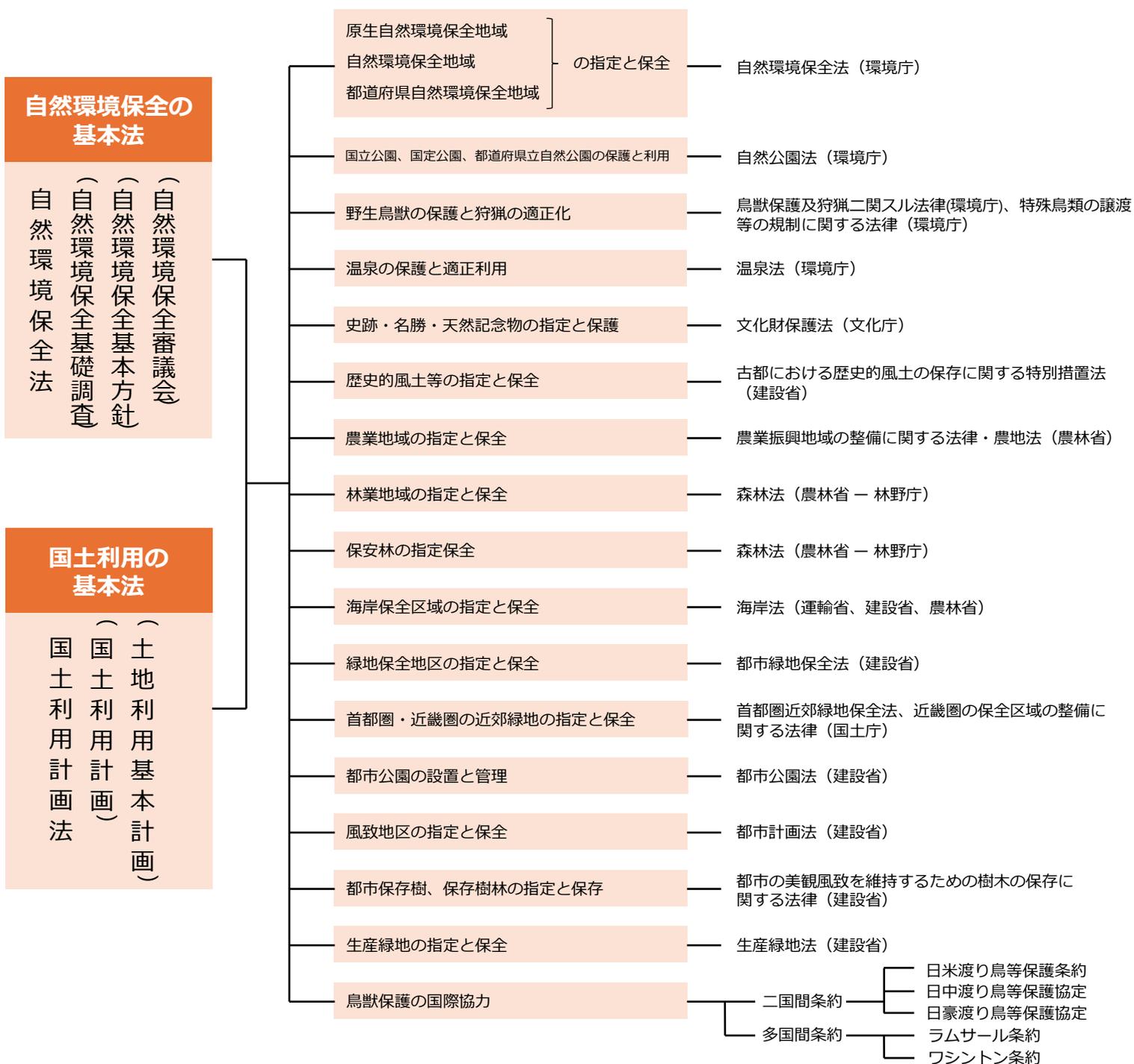
蕃山は、市街地の西部に位置する「蕃山」「西風蕃山」「蛇台蕃山」の3つの峰からなる里山。蕃山にはいくつかの登山道があり、どのコースも登山口から1時間位で頂上へ着くことが可能。山頂からの眺めもすばらしく、太白山や権現森などが一望できる。松島瑞巖寺の雲居禅師（うんごぜんじ）がこよなく愛した山とも言われており、季節ごとに訪れてみたい場所となっている。

(仙台市公式ホームページより)

国立公園、国定公園、県立自然公園、県自然環境保全地域、緑地環境保全地域は、それぞれ異なる目的と管理体制を持っています。国立公園や国定公園は、特に優れた自然環境を保護するために国や都道府県が指定するものであり、観光やレクリエーションの場としても利用されます。一方、県自然環境保全地域や緑地環境保全地域は地域の特性に応じた保全活動が行われ、地域住民の生活と調和した形での重要な資源となっており、自然環境の保護が求められている。持続可能な利用が重要であることを理解しウォーキングツーリズムの開発を進める必要があります。

資料：自然環境保全制度の体系

我が国の自然環境は、下の図にまとめられるような法体系によって保全されています。また、これら以外の法律の中にも、部分的ではありますが、何らかの形で自然環境の保全に配慮する規定が入っているものが多くあります。これらの法体系は「自然環境保全法」を基本とし、環境庁が関係行政機関の総合調整を行いつつ運営にあたっています。



第2章 仙台市ウォーキングツーリズム・モデルコース案



1. コース紹介

A. 仙台アルプス

B. 東部沿岸

C. 秋保



▲磊々峡（秋保コース）

JR仙山線・愛子駅から仙台駅までを、西風蕃山～萱ケ崎山～太白山自然観察の森～青葉城址を経てゴールを目指します。途中のビューポイントでは仙台市中心部から太平洋の絶景を眺め、ルートのおよそ20kmの道のりは、外国人観光客や愛好家のニーズに充分に応えます。



策定コース案

距離 約20km

所要時間 約7～8時間

- | | |
|----------------|----------------|
| ① JR仙山線 愛子駅 | ⑤ 蕃山緑地環境保全地域 |
| ② 錦が丘ヒルサイドモール | ⑥ 太白山件自然環境保全地域 |
| ③ パンモンターニュ 030 | ⑦ 金剛山治山の森 |
| ④ 本法寺 | ⑧ 八木山動物公園駅 |



① JR仙山線 愛子駅

愛子駅からスタート。駅前には地元でも大人気のおにぎり屋さんがあります！



② 錦が丘ヒルサイドモール

長いトレイルを歩く前に、キレイなトイレに行けるのが嬉しい。



③ パンモンターニュ 030

お弁当候補をもうひとつ。愛子の隠れた人気店。パンモンターニュでは絶品パンが！



⑤ 蕃山緑地環境自然地区

10万人都市の中にあるとは思えない深い杜の山道を行く



⑥ 太白山件自然環境保全地域

太白山登山道は立入禁止になっているため迂回ルート歩きます。



⑦ 金剛山治山の森

ルート上には絶景ポイントがたくさん！

このコースでは、東日本大震災で甚大な被害を受けた仙台市の東部沿岸エリアを中心に巡ります。震災遺構や避難の丘、慰霊碑を見学し、当時の記憶に想いを馳せながら、海風を感じるひとときを過ごすことのできるコースです。歴史ある貞山運河沿いを歩きつつ、地域の活力を生む拠点施設や、復興に向けた取り組み、地元の新たなビジネスについても体感してみたいかがでしょうか。過去を振り返りつつ、未来へ進む力強さを感じ、人々は新たな希望と地域の絆を再確認できることでしょう。



距離 約18km

所要時間 約5～6時間

策定コース案

- ① アクアイグニス仙台
- ② 避難の丘（藤塚地区）
- ③ 貞山運河
- ④ 海岸公園冒険広場・馬術場
- ⑤ JRフルーツパーク仙台あらはま
- ⑥ 避難の丘（荒浜地区）
- ⑦ 震災遺構仙台市立荒浜小学校
- ⑧ 深沼海岸
- ⑨ 海岸公園センターハウス
- ⑩ 新浜タワー・みんなの木道
- ⑪ 避難の丘（蒲生地区）
- ⑫ 風と手と土
- ⑬ なかの伝承の丘
- ⑭ 蒲生なかの郷愁館
- ⑮ 日和山
- ⑯ キリンビール仙台工場
- ⑰ 三井アウトレットパーク仙台港



⑩ 新浜タワー、みんなの木道

貞山掘や松林が一望できる高さ約5mの木造の物見台。そばには「みんなの木道」も。どちらも、アーティスト・川俣正さんによるプロジェクトの一環で制作され、「東部沿岸地域での新たなコミュニティ作りを手助けしたい」という思いが込められています。

① アクアイグニス

藤塚地区に建設された「食・農・温泉」の複合施設。一流シェフが監修するパティスリーやレストランでは、地元食材を使用したメニューを堪能できます。



③ 貞山運河

伊達政宗公の時代から残る日本最長の運河が歴史を感じさせる東部沿岸エリア。新浜に吹く心地よい海風を感じながら、散策を楽しむことができます。



⑦ 震災遺構仙台市立荒浜小学校

東日本大震災の震災遺構として常時内部を公開。津波で大きな被害に遭いながらも、避難してきた児童や住民320人全員の命を守った校舎が当時の姿のまま残されています。



⑮ 日和山

かつては約6mの高さでしたが、東日本大震災での津波や地盤沈下により、標高は約3mに。「日本一低い山」として、地域住民はもちろん、国内外問わず多くの観光客から愛されています。

C.秋保コース

秋保大滝からはじまり、観光案内所「秋保・里センター」を目指し歩きます。美しい田園風景や里山が広がる穏やかな道のりを抜けると、賑やかな温泉街に辿り着きます。

今回は、シリーズ化している「いってみっぺ秋保」（企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市）を参考にコースを組み合わせ、秋保の大自然・文化歴史・食などを五感で楽しんでいただけるコース案といたしました。



距離 約16km

所要時間 約4～5時間

策定コース案

- | | | |
|----------|-------------------|------------|
| ① 秋保大滝 | ⑤ 秋保神社 | ⑨ 天守閣自然公園 |
| ② 秋保大橋 | ⑥ 岩の下の野道 | ⑩ 湯神社 |
| ③ 沢口の小道 | ⑦ 向泉寺 | ⑪ 磊々峡 |
| ④ 沢口の石塔群 | ⑧ 秋保の杜 佐々木美術館&人形館 | ⑫ 秋保・里センター |



① 秋保大滝

秋保大滝は、落差約55メートルの美しい滝で、四季折々の景観が楽しめます。特に秋の紅葉シーズンには、多くの観光客が訪れ、その美しさに魅了されます。滝の周辺には遊歩道が整備されており、ウォーキングをしながら滝の迫力を間近で感じることができます。



⑤ 秋保神社

自然に囲まれた美しい境内や、歴史的な建造物、四季折々の風景が魅力の秋保神社。特に紅葉の季節の景観は見ものです。神社周辺の散策路も魅力的で、癒しの空間を楽しむことができます。



⑨ 天守閣自然公園

温泉・足湯・食・庭園等を楽しめることができ、小屋跡庭園では四季折々の草花・小鳥たちのさえずりが心地よく響き渡ります。

2. 各コースの現状と課題

A. 仙台アルプスコース

【蕃山～青葉城址：仙台アルプス縦走コース】

仙台市西部には、蕃山、太白山、青葉山などの美しい自然環境が広がっています。これらの山々は、豊かな植生や多様な生態系を有し、地元住民や自然愛好家にとっての憩いの場となっています。この地域の自然を活かしたウォーキングコースの策定は、地域の魅力を引き出し、仙台を訪れる人々に新たな体験を提供することが期待されます。

加えて欧米豪などの活動的なインバウンド観光客をターゲットにしたロングコースの策定は、地域の経済振興において重要な施策となり、仙台市の観光資源を最大限に活用し、地域経済の活性化を図ることが可能です。

◎ 地権者の複雑な関係

蕃山や太白山、青葉山周辺には、国有林、民地、仙台市等の土地が複雑に入り混じっています。中でも太白山はお寺が管理する私有地で現在は入山不可となっており注意が必要です。ウォーキングイベントの実施や仙台市公認ルートの方策による観光客の誘致には、管理者、地権者との調整が必要となり施策への理解を求めているかなくてはなりません。地元の住民や関係者とのコミュニケーションを強化し、共同で取り組むことがウォーキングツーリズム成功の鍵のひとつとなります。



- ▲ルート上には所々、立ち入りが制限されている場所が。
- ▶私有地である太白山は、地震の影響も相まって、現在は入山が認められていない。



◎ルート案内の整備

地域住民以外のウォーキング愛好家や観光客などに、ガイドによる案内ではなく自分自身でウォーキングコースを歩いてもらうには、訪れる人々が安心してウォーキングを楽しむことができる環境を整える必要があります。美観を損なわない共通の案内看板の設置や、環境に負荷をかけないピンクテープの目印などが重要です。仙台市としてその場所の管理者に承諾を得て設置することが可能ですが、民地の場合は地権者の賛同を得るための調整が必要です。



◀仙台アルプスコース上には、次に進む道が分かりにくい場所が多い。公式のコースにするのであれば、これらのような案内看板の設置が求められる。

◎管理体制の重要性

ウォーキングコースの管理者を明確に定めることは、トラブル発生時の対応を円滑にするために不可欠です。特に、登山道の老朽化や地域住民の高齢化が進む中、適切な管理体制を構築することが求められています。仙台市としても他の部署や関係機関と連携し、効果的な管理体制を確立することが重要です。青森県の奥入瀬渓流や蔵王エコーラインなどでは、ガイド制度や入林届の活用により、観光振興と自然保護を両立させています。地域の特性に応じた適切な施策を検討することが重要です。地元の人々との協力を重視し持続可能な観光地を目指すことが求められます。

すでに仙台市民の愛好家には定番のウォーキングルートとなっている、番山エリアのウォーキングコース策定は、地域の魅力を引き出す重要な取り組みです。地権者との調整や管理体制の構築を通じて、自然環境を保護しつつ、観光振興を図ることが期待されます。地域の特性を活かしたコース設計を行い、訪れる人々に新たな体験を提供することで、仙台市の観光資源を最大限に活用していく必要があります。

B.東部沿岸コース

【アクアイグニス～三井アウトレットパーク仙台港：東部沿岸エリアコース】

太平洋に面した仙台市東部沿岸エリアは、美しい海岸線はもちろん、全長31.5kmに及ぶ日本一長い貞山運河など、豊かな自然景観に溢れた場所です。

その一方で、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響を強く受けた地域でもあり、「仙台市立荒浜小学校」をはじめとした震災遺構など、当時の被害の大きさを伝える施設や展示が数多く残されています。しかしながら、インフラの再建が行われたり、事業の一環で新たな施設ができたりと、整備は着実に進んでおり、活気溢れる「復興のシンボルエリア」と言えるでしょう。

また、東部沿岸エリアは、2024年2月、英国「タイムズ」紙の「日本の訪れるべき場所14選」に選出された「みちのく潮風トレイル」のルートを含むエリアでもあります。当該エリアにウォーキングコースを策定し、活用に向けた整備を行うことは、「みちのく潮風トレイル」を目当てに来日する外国人観光客に対して、当該エリアはもちろん、仙台域内への誘客を図る効果的な手法だと考えます。

◎貞山運河を基軸にしたコース設定

貞山運河とは、阿武隈川河口から名取川河口までの「小曳堀（こびきぼり）」、名取河口から七北田川河口までの「新堀（しんぼり）」、七北田川河口から塩竈湾までの「御舟入堀（おふないぼり）」の3つの運河からなり、全長31.5kmに及ぶ日本最長の運河です。

伊達政宗公の贈り名「瑞巖寺殿貞山禅利大居士」にちなんで名付けられた貞山運河は歴史は、歴史が深いものです。この貞山運河を軸にしたコース設定が効果的ではないかという提言が、ヒアリング実施対象者から多数寄せられました。しかし、現状の貞山運河沿いには、その歴史や建設の経緯・過程等を示す看板はないため、「貞山運河を基軸としたコース」にするには課題があります。若林区役所海浜エリア活性化企画室が主導する「貞山運河活性化推進事業」の実施が検討されているため、仙台市ウォーキングツーリズムと連携する形での看板の設置やコースの整備が効果的なのではないかと考えられます。

また、運河自体の活用に対する提言もヒアリング実施対象者より寄せられ、水位が浅いほか、漁業権の問題から動力ボートの使用は難しいですが、大型のゴムボートであれば水位がなくても移動することが可能です。現状は、定期的な運航や管理権に課題がありますが、整備次第では、東部沿岸コースのキーコンテンツになる可能性があります。



◎東部沿岸エリアのコース特性

東部沿岸エリアのコースは、ほとんどがアスファルトであるほか、南北に長く、アップダウンが少ないという特性があります。このような環境のコースへの需要を生み出すため、下記のような解決策が挙げられました。

1) サイクリングとの掛け合わせ

東部沿岸エリアを訪れる観光客は、主な移動手段が車であることが特徴として挙げられており、アクセスの観点からも徒歩での移動は難しいのではないかと指摘があります。実際に、策定コース案は長距離のルートの中でポイントが点在しています。しかしながら、当該エリアには貞山運河沿いに歩行者自転車専用道路があるほか、海岸公園センターハウスに貸し出し自転車、地下鉄東西線荒井駅・アクアイグニス仙台・JRフルーツパーク仙台あらはまの3カ所に「海手サイクル」と呼ばれるバイクシェアサービスがあり、サイクリングを楽しむには最適な環境が整えられています。サイクリングを有効に活用することで、観光客の移動距離を倍増させることができます。また、各ポイントでは徒歩で散策を楽しんでもらうことで、エリア内の魅力をより感じやすくなるのではないかと考えます。

2) 避難の丘

東部沿岸エリアの策定コース案は、貞山運河より内陸側に徒歩ルートが設けられていることもあり、一部を覗いて海が見えません。その解決策として、コース上にある5カ所の「避難の丘」を取り入れることで、高低差が生まれるだけでなく、頂上からは仙台湾を一望でき、素晴らしい景色を眺めることができます。

当該エリアのコース作成をする上では、コース上の避難ポイント設置は欠かせません。本来の意味を成すとともに、建設された理由を知り、防災について学ぶという意味でも、コース案に避難の丘を入れ込むことは有効だと考えられます。

海岸沿いの堤防も海が一望できて眺めが良く、ぜひウォーキングコースに含めるべきですが、一度上ると内陸に戻ってくるのが難しくなるほか、柵などの安全装置は設置されていないため、「仙台市のオフィシャルルート」として売り出していくには課題が残ります。

◎ 地域の取組や情報提供の充実

東部沿岸エリアには、多様な施設やコンテンツが存在するほか、「ふるさとの杜再生プロジェクト」と題して海岸防災林をはじめとしたみどりの再生を図る活動が行われています。プロジェクトの一環として植樹や育樹活動が行われており、過去には植樹後にサイクリングイベントも実施されるなど、活発な動きがありました。このイベントをウォーキングに変更したり、誰でも気軽に植樹を体験できるコンテンツを造成したりすることで、当該エリアに訪れた人に新たな体験を提供できます。

しかし、「ふるさとの杜再生プロジェクト」など地域の取組みは、外部の人には何が行われているか分かりづらいという課題もあります。観光客の興味関心を引き出すためには、プロジェクトの内容（理念や経緯、歴史など）について情報提供を図る必要があるでしょう。看板の設置はもちろん、ガイド（人）や二次元コードを活用したセルフガイドを導入することで、プロジェクト内容はもちろん、震災後の復興への道のりをひとつのストーリーとして体感してもらうことができ、訪れる人々により多くの「価値のある体験」が提供できます。併せて、荒浜エリア（震災遺構「仙台市立荒浜小学校」付近）の状況を記す看板の設置についての意見も挙げられました。同エリアは復興の過程にありますが、完成形ではなく、その過程を見せていくことで「また見たい、進捗を見に訪れたい」と思うリピーターの創出に繋がります。

◎ 広域行政や地域事業者との連携

地域の魅力を向上させるためには、地域事業者との連携を深めながら、広域行政連携も推し進めることが非常に重要です。特に、東部沿岸エリアのコース策定にあたっては、名取市との連携も有効であるとの意見が挙げられました。現に、名取市にあるゆりあげ港朝市やかわまちテラス閑上には多くの外国人観光客が訪れており、連携することで効果的な誘客促進が見込めると考えられます。

また、名取市沿岸部は震災以降も居住可能区域となっており、多くの人が暮らしています。周遊バスが運行すれば、観光客はもちろん、地域住民にとっても良い効果が得られるため、隣接する行政と連携して事業を推進していくことが重要だと言えるでしょう。

そして、地域事業者との連携は、隣接行政との連携以上に重要だと考えられます。

年間を通して当該エリアに観光客を呼び込むには、公共交通機関の整備が必要になりますが、当該エリアを走るループバスは現状、運行期間が限られています。期間の延長についての検討はもちろんですが、地下鉄東西線荒井駅とアクアイグニスを結ぶシャトルバスとの連携により、観光客の利便性を向上させることができると考えます。

◎ 地域住民との調和

地域住民の思いを大切に、観光客の増加だけでなく地域への還元を考慮したコース策定が求められます。また、震災により大きな被害を受けた東部沿岸エリアは、元々そこに住んでおられた方々の複雑な思いも考慮すべきであり、エリア全体での調和を図ることが、本事業推進の鍵となるでしょう。



仙台市東部沿岸エリアには、多くの魅力的な観光コンテンツが存在していますが、ウォーキングコースとしての統合には課題があります。

特に、これらのコンテンツはすべて仙台市の管理下にあるわけではないため、看板の設置やその他の整備を行うには、関係者及び土地やコンテンツの管理者（保有者）を詳しく確認する必要があります。

また、「みちのく潮風トレイル」のルートを含むエリアでありながら、外国人観光客の姿を見かけることは少なく、その知名度の低さも課題です。

当該エリアには前述に記載した他にも、震災前の地域の暮らしに焦点を当てた「蒲生なかの郷愁館」や特に台湾人観光客が多く訪れる「日和山」、東北随一の下処理場であり、東日本大震災発生時の津波で湾曲したポンプ場がその威力を物語る「南蒲生浄化センター」など、エリアの特性を伝える“鍵”となるコンテンツが多く存在しています。

そのため、歴史ある「貞山運河」を基軸に置きながら、過去からの教訓を知り、未来に向けた歩みを感じることでできる「学びのコース」として整備し、情報発信を推進することで、東部沿岸エリアコースの知名度アップ及び観光客の増加が期待できると考えます。

C.秋保コース

【秋保大滝～秋保・里センター：秋保コース】

秋保温泉でのウォーキングコースは、秋保大滝を起点に観光案内所「秋保・里センター」を目指すコースです。秋保の自然や文化を五感で楽しむことができ、地域に残る伝説や民話にも触れられるように設計されています。大滝を眺めた後は、田園風景や里山の美しい景色を楽しみながら、賑やかな温泉街を通り、最終的には轟々峡に到達します。

◎安全な歩行ルートの確保

自動車の通行が多い側道を避け、安全に歩けるルートを策定することが重要です。特に、観光客が多く訪れる時期には、交通量が増加するため、歩行者専用の道や安全な交差点の整備が求められます。交通事故や観光客がトラブルに巻き込まれることによって、地域にネガティブな印象が定着しないよう、細心の注意が必要です。

◎自分好みのスポットを見つける誘導

見どころやお店が広範囲に点在しているため、訪れる人々が自分の好みに合ったスポットを見つけやすくなるための情報提供が必要です。デジタルマップやアプリを活用し、日々更新されるタイムリーな情報発信が効果的です。

◎外国人観光客への対応

秋保温泉は古くから観光客を受け入れており、多くの観光情報があります。しかし、外国人観光客に地域の魅力をどのように伝えるかが課題となっており、多言語対応の案内板やパンフレットの整備が求められます。また、地域の文化や歴史、民話を外国人向けに紹介する数々の言語に対応したプログラムを充実させることも重要です。



▲秋保エリアは観光地ということもあり、案内板が多数設置されているが、外国語表記がされていない。



▲秋保観光案内所では、この地域で昔から語り継がれてきた伝説や昔話を秋保の方言を交えて話してくれます。(秋保・里センター公式ホームページより)

◎トイレの整備

ウォーキング中に利用できるトイレの整備は重要です。特に女性が安心して利用できるトイレの設置が求められます。トレイルとしての利便性を高めるために、トイレの場所や清潔さを確保することが重要です。

▶ウォーキングをフックに観光客を呼び込むのであれば、清潔なトイレの整備は欠かせない。秋保コースはルート途中の田園地帯に自由に利用できるトイレがないことも課題である。



◎PR戦略の強化

秋保温泉は、日本国内の有名温泉地に比べて知名度が低いという課題があります。

また日本人は、自分が知っていることを知らない人にわかりやすく伝えるのが苦手とされており、東北管内ではそれなりに認知されている秋保温泉を他県の在住者や外国人観光客に伝えるのがおざなりになっていたとの指摘もあります。

地域の観光エリアの魅力を伝えるためには、動画コンテンツが非常に効果的です。外国人にも訴求できる美しい映像による、「視聴者がその地に行きたくなる」構成による観光PR動画など、地域の魅力を動画で伝えることで、視覚的な訴求ができます。YouTubeやSNSでのシェアを促進し、広範囲に情報を拡散することが重要です。

秋保温泉の公式ホームページにウォーキングルート情報を充実させることも大切です。アクティビティ、イベント情報などを分かりやすく掲載し、訪問者が必要な情報を簡単に見つけられるようにします。また、ブログやニュースセクションを設けて、最新情報を定期的に発信することも効果的です。

あわせてSNSも、秋保を歩く情報をリアルタイムで発信するのに最適なツールです。InstagramやFacebookを活用し、観光客が歩きながら見つけた秋保温泉の美しい風景や地元のイベント、特産品などを投稿することで、フォロワーとのエンゲージメントを高めることができます。また、ユーザー生成コンテンツ（UGC）を促進し、訪問者が自らの体験をシェアすることを奨励することも効果的です。

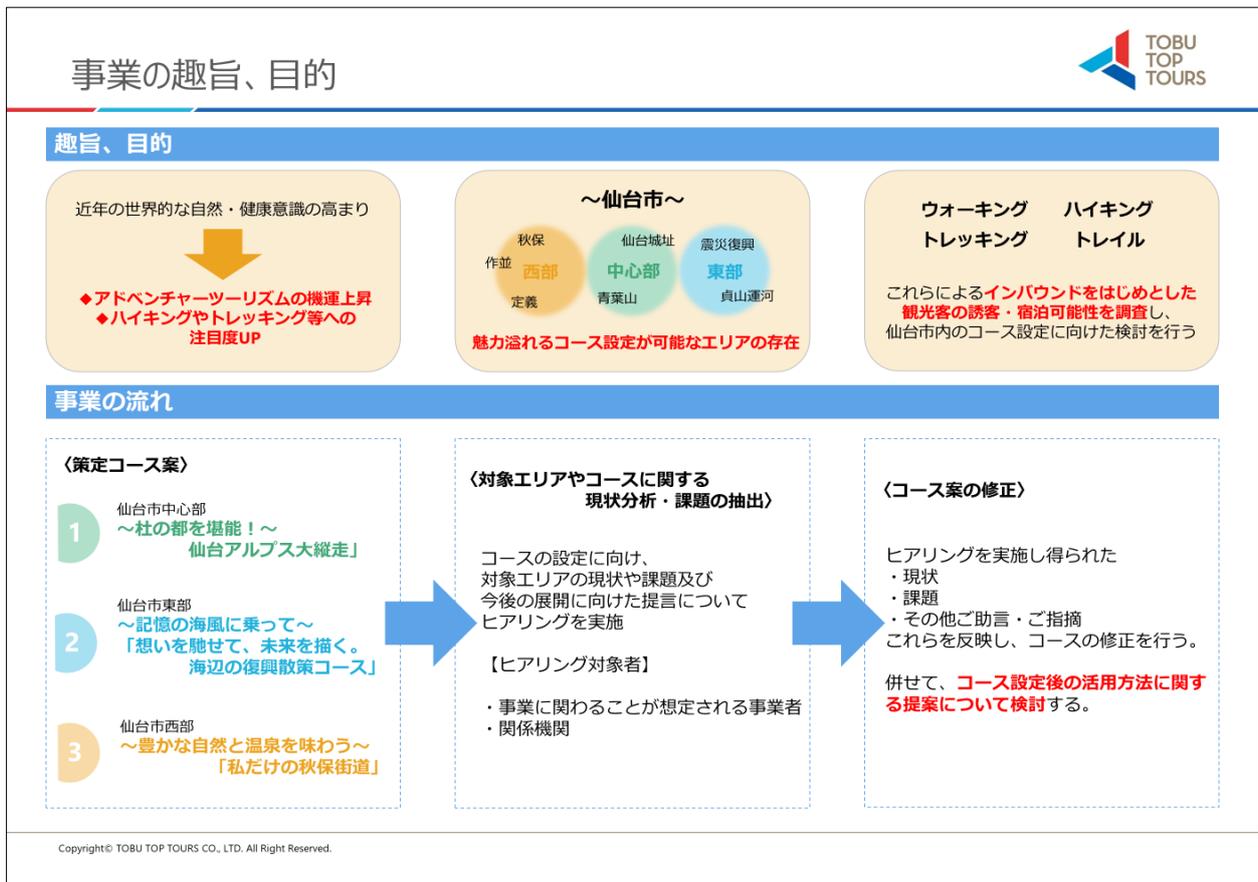
アンケートやSNSでのコメントを通じて、観光客のフィードバックを積極的に取り入れ、観光客が求める情報やサービスを把握し、それに基づいた施策を展開することでより魅力的な観光地としての地位を成長させることができます。

秋保温泉の魅力を最大限に引き出すためには、すでにある観光情報をその場で得られる体制は整っているため、旅の計画段階から秋保温泉に行きたくなるよう、旅マエの動画コンテンツや季節ごとのイベント情報をSNS等を活用して発信することが不可欠です。これらの施策を通じ旅を計画する観光客の興味を引き、次の旅には、秋保温泉を訪れたい気分を高揚させる魅力的なPRを展開していくことが求められています。

3. 地権者・関係者リスト

1) 調査の実施概要

事業の概要を記した資料を作成の上、該当エリアの関係者に、エリアの現状やコース策定に関する課題のヒアリングを行いました。



2) ヒアリング実施日

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| ①2025年1月27日（月） | ②2025年2月7日（金） | ③2025年2月14日（金） |
| ④2025年2月15日（土） | ⑤2025年2月18日（火） | ⑥2025年2月19日（水） |
| ⑦2025年2月26日（水） | ⑧2025年3月7日（金） | ⑨2025年3月14日（金） |

3) ヒアリング実施対象者

ヒアリングを行った該当エリアの関係者は、下記の通りです。

A.仙台アルプスコース	(公財) 仙台市公園緑地協会 野草園
	東北森林管理局 仙台森林管理署
	仙台市建設局百年の杜推進課
B.東部沿岸コース	仙台市若林区まちづくり推進部 海浜エリア活性化企画室
	仙台市宮城野区まちづくり推進部 海浜エリア活性化企画室
	(公財) 仙台市公園緑地協会施設管理課
	仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室
	3.11メモリアル交流館
	(公財) 仙台市公園緑地協会 海岸公園センターハウス
C.秋保コース	株式会社SEASON 代表取締役 佐藤 儀明 様
	宮城総合支所 まちづくり推進課地域活性化推進室
	秋保地域資源活用委員会
その他	日本クアオルト研究機構
	東松島市産業部商工観光課観光振興係

4) ヒアリングを実施して得られた、該当エリアの地権者・関係者一覧

ヒアリングを行うことで得られた、該当エリアにウォーキングコースを策定する上での重要な人物である「地権者」や「関係者」を下記にまとめました。

A. 仙台アルプスコース

・太白山ふれあいの森協力会

－ 会員は太白山の地権者111人

引用：「おらほ！のまちづくり」 【発行日】平成24年2月 【発行者】太白区まちづくり推進課

・番山21の会

－ 番山およびこれに連なる優れた自然環境ならびに自然と一体になっている文化・社会・歴史環境に配慮しながら自然を保全し、多くの人々が自然に親しみ、新たなる緑の文化を創造して、将来の世代に引き継ぐことを目的に、「保護部会」「ふれあいの森部会」および「親しむ部会」に分かれて活動を行っている。

・八木山自然を探る会

・青葉山・八木山フットパスの会

―青葉山・八木山の両地区における地域資源を掘り起こし、それらの魅力を市民に広報することによって、杜の都仙台の宝となる地域の実現を図るとともに、両地区が連携するまちづくりを推進できるようにするため、竜ノ口沢によって隔てられた当該地区を結ぶ散策路であるフットパスの実現に向けた事業をすすめていくことを目的としている。

・青葉山の緑を守る会

―市有林「青葉の森」の自然環境を保護・保全する様々な市民活動を展開。

活動は仙台市からも認められており、平成16年度からは、管理棟の運営の一部を市から任せられている。

・生出市民センター、山田市民センター、八木山市民センター

―常駐者がおり、土地の関係者や歴史を把握している。

B . 東 部 沿 岸 コ ー ス

・（一社）貞山運河ネット

―沿岸エリアの活性化のため、貞山運河を活用した各種イベントの開催や、貞山運河を中心にした歴史の伝承や広報活動を行っている。

【発起人一覧】

ゆりあげ港朝市協同組合	理事長／櫻井 広行
株式会社深松組	代表取締役社長／深松 努
仙台ターミナルビル株式会社	代表取締役社長／松崎 哲士郎
株式会社仙台商産（仙台水産Gホールディング）	代表取締役会長／島貫 文好
株式会社菓匠三全	代表取締役／田中 裕人
仙台国際空港株式会社	代表取締役社長／鳥羽 明門
七十七銀行	常務取締役／小野寺 芳一
宮城県民共済生活協同組合	代表理事理事長／本田 陽二
株式会社佐々直	代表取締役／佐々木 直哉
閑上水産加工業組合	理事長（株式会社ささ圭 代表取締役）／佐々木 圭亮
株式会社かわまちテラス閑上	専務取締役（有限会社まるしげ 代表取締役）／佐藤 智明
松栄不動産株式会社	代表取締役社長／松坂 卓夫
株式会社プランニング・オフィス社	会長（月刊りらく発行人）／松本 辰三
貞山運河倶楽部	代表／上原 啓五
フリージャーナリスト	大和田 雅人

第2章 仙台市ウォーキングツーリズム・モデルコース案

・せんだいメディアテーク

ー津波で被害を受けた仙台市内沿岸部地区で、2017年から行われている長期的なアートプロジェクト「仙台インプログレス」に協力・支援。

・新浜町内会

・となりの畑

・NPO法人 水・環境ネット東北

ー貞山運河周辺・新浜エリアに関するウォーキングイベントやスタプラリー等の主催・協力を行っている。

・なかの伝承の丘 保存会

ー「なかの伝承の丘」の管理

・合同会社社の都バイオマスエナジー（発電所）

ー「蒲生なかの郷愁館」の施設・設備管理を行っている。

また、展示内容の企画・運営は上記「なかの伝承の丘保存会」が担っている。

C . 秋 保 コ ー ス

・（一社）秋保地域活性化協議会

ー秋保地域を拠点とした仙台圏において、地域資源を活用した持続的な活動を行う。

地域や観光事業の活性化を図り、豊かな自然環境や伝統文化の保全など、広く公益に寄与することを目的としている。

代表理事	伝承の宿 佐勘	代表取締役社長／佐藤 勘三郎
理事	花工房はゆな花壇・秋保・里センター	代表・副館長／及川 俊郎
理事	株式会社大滝自然農園・秋保ビジターセンター	代表取締役・館長／佐藤 茂
監事	篝火の湯 緑水亭	常務取締役／高橋 知子
事業運営部	秋保・里センター・秋保ビジターセンター	館長・所長／佐藤 司

・秋保地域資源活用委員会

・秋保地区地域活動のつどい連絡会議

（一財）秋保教育文化振興会	手しごとAKIU
緑を守り育てる宮城県連絡会議	秋保温泉旅館組合
みやぎ仙台商工会秋保支部	（農）あきう生産組合
野尻いぐする会	宮城手打ちそば研究会
さかいの地区創生会	秋保市民センター
秋保総合支所	

4. 他地域の事例と比較

1) 「宮城オルレ奥松島コース」作成における地域住民等との合意形成について

宮城オルレとは、済州オルレの姉妹版で、2018年10月に「気仙沼・唐桑コース」及び「奥松島コース」がオープンと共にスタートしました。2019年9月には「大崎・鳴子温泉コース」、2020年3月には「登米コース」、2023年11月には「村田コース」がオープンし、現在5コースが整備されています。

じながら、数多くの景勝地を巡ることのできる「奥松島コース」は、宮城オルレの年間利用者数の半数が訪れるほど、特に人気の高いコースとなっています。そんな奥松島コースのある宮戸地区は4つの浜に分かれており、開設前に2回、4つの浜の代表者向けの説明会が開催されています。

2017年10月10日開催：宮戸地区コミュニティ推進協議会会議

2017年10月10日に開催された宮戸地区コミュニティ推進協議会会議では、オルレコースの概要や進捗状況、今後のスケジュール案が説明されました。実施に関する地元からの賛否等は特になかったものの、草刈り等、コースの常々の維持管理に関して、地元だけでは対応しきれないといった懸念が上げられた一方、東松島市より、地域おこし協力隊の支援による定期的な管理を計画するとともに、それらに関する予算を計上する方針が示されています。

2018年8月6日開催：宮戸地区コミュニティ推進協議会会議

翌年2018年8月6日に行われた同会議では、同年10月8日に奥松島コースのオープニングセレモニーが行われるとともに、約500名（韓国人200名）が宮戸を訪れる旨の説明が行われました。また、質疑応答の時間も設けられ、住民からはコースの管理のこと、事故発生時の対応等が問われました。

〈質疑応答内容の詳細〉※一部

Q：オルレのコースについて、どの様に管理していくのか？また、どの様にしてコースを歩くのか？

A：基本的には市で管理する。オルレ独自のカンセ、矢印、リボンといった標識を頼りにコースマップを見ながら歩いてもらうこととなる。基本的には「あおみな」がオープンしている間に踏破証明のスタンプの押印を持って完了となる。

Q：コース途中での事故・怪我への対応は？

A：コースマップなどに、危険リスク（スズメバチ・マムシ）や緊急連絡先との連携（警察・消防・医療機関）を記載して対応を図る。

Q：看板等、韓国語標記が必要になるのでは？

A：パンフレットや看板にも韓国語を併記する予定である。

上記の他、東松島市から地域住民へ、コースオープンに伴う多くの韓国人の訪問に対して、「見かけたら、言葉が通じなくても挨拶や声掛けをしてほしい」との説明が行われました。また、開設後の2019年3月7日にも浜の一部（住宅街を通過する地域）向けに説明会が開催されており、住民自体がコースが分からず答えられないとの話を受け、標識の見方の説明や、迷いやすいポイントについて拡大地図等を用いた説明等が行われています。

このように、宮城オルレ奥松島コースは、地域の有識者や、開設後にコース維持に関わる人々への経緯説明や相談を経て、コースが開設されています。

また、コースの一部は私有地となっているため、標識やリボンの設置などにおいては地権者全員を個別に訪問の上、事業説明を行い、土地使用に係る同意書をいただいてからコース開設に向けた準備が進められています。以上のことから、「ウォーキングコースの開設」において、コース設定時から地域の意見を反映すること、役割分担や費用負担など、維持管理について主催者側の明確な方向性を示すことは必須だと考えられます。同時に、利用者のマナー違反が地域住民の生活に支障をきたさぬよう、利用者へのルール啓発や、近隣の警察や消防への情報提供など、連絡体制の確立も求められると言えるでしょう。



【参考資料】住民説明会の際に使用された資料（一部抜粋）

◎ 策定コース案をオルレに認定する場合

オルレコースの策定にあたっては、上記したように、地域住民との連携（協力体制）が整っていることが、認定条件のひとつとなります。その他にも、オルレ認定にはいくつか条件がありますが、策定したコース案は下記の点等で課題が残っていると考えられます。

■ 認定条件：「地域住民との連携（協力体制）」があること

仙台アルプスコースが含まれる番山や太白山、青葉山周辺エリアは、地権者が複雑に入り組んでいるため、仙台市の公式コースに設定する上では地域の合意を得る必要があります。また、手つかずの自然道が多いという点ではオルレに適したコースとなっていますが、設定後の維持管理の重要性を踏まえれば、地域との連携は欠かせないでしょう。

■ 認定条件：舗装道をできるだけ避けること

3つのコース案全てに共通する事項ですが、特に東部沿岸コースは、東日本大震災後の整備の影響でコースのほとんどが舗装道となっており、オルレへの認定は難しいと考えられる。

2) 「クアオルト健康ウォーキング」による活性化をめざす地域社会

「クアオルト健康ウォーキング」は、他のウォーキングイベントとは一線を画した新しい理念を持っている注目すべきプログラムです。「そこに山があるから」と、いつも抽象的に表現され続けてきたように、ウォーキングを行う理由の多くは「ただ、歩くことを楽しむ」とされていたのに対し、クアオルトでは、心身の健康を総合的に考慮してアプローチされているのが特徴です。数多くのエビデンスを基にして構築された理念に基づき、自然の中で行われるクアオルトは、参加者の身体的な健康だけでなく、メンタルヘルスや意欲向上を促進します。このような多面的な健康促進の考え方は、参加者が長期間にわたって活動が続けられる動機付けとなり、持続可能な健康習慣を形成する理由付けになっています。

クアオルト健康ウォーキングは、スキー場や公園、私有管理地内など、地域住民や関係者の同意を得ることが比較的容易な場所においてルート設定をしています。これにより地域の特性を活かした多様なトレイルが、比較的容易に整備され、参加者がその地域の特性を楽しめるウォーキングイベントを迅速に実施することができます。このような取り組みは、地域の軋轢を生むことなく資源の有効活用につながり、観光資源として地域の価値を高めることにつながります。

「クアオルトアワード」は、健康福祉を推進する自治体にとって非常に興味深い制度です。地域の健康促進活動に対してクアオルトの整備にかかる調査・設計、物品、人材育成、ノウハウの提供などに最大1,000万円相当のふるさと納税が寄付され、地域が健康福祉施策を強化できる手段となっています。加えてアワードの受賞は、その地域の知名度を高めることができ、関係人口の拡大および観光客の来訪にもつながっています。

東北地域では山形県上山市が、クアオルト先進都市として注目されています。上山市には、ドイツのミュンヘン大学が認定した8つの健康ウォーキングコースがあり、奥羽山脈に囲まれた山稜に包まれた盆地が点在する、山形県ならではの標高200mから1,000mまでの多様な地形が活用されています。参加者は体力に応じて、それぞれのコースで異なる自然の魅力を体感でき、特に蔵王連峰の美しい景観が人気です。民間企業の支援を受けながら、地域住民が主体となってウォーキングイベントを開催しています。地域住民が自ら参加し、運営に関わることで、コミュニティの絆が深まり、健康意識の向上も促進されています。上山市の取り組みは、今後仙台市と連携し、東北一円でアドベンチャーツーリズム活性化に向けてとても参考となるモデルケースになっており、持続可能な健康促進を目的とした地域主導型の活動が東北全体に広がることが期待されています。



▲全て上山市公式ホームページより

Column

◎岩手県北上市の「the campus」～ ILC誘致に向けてのクアオルト・ウォーキング

岩手県北上市が誘致候補地として選ばれた国際リニアコライダー（ILC）は、素粒子物理学研究を目的とした次世代の加速器プロジェクトであり、岩手県内をはじめとする関係機関の間では盛んな誘致活動を行っています。

ILCの建設が決定れば、世界中から研究者が集い科学技術の発展だけでなく、地域経済の活性化にも大きく寄与します。研究施設の開発、運営が進み、関係者が集まることで、地域は科学の最先端地域になることが予測され、雇用の創出や観光業の発展も見込まれ、国際的な交流が進むことで地域の知名度が向上するでしょう。

「the campus」は、岩手県北上市のかつては縄文人たちが暮らしていた里山に囲まれた地域に位置する環境との共生を重視する自然豊かな施設です。ILCが稼働する未来にむけて開発者や研修者が集うオアシスとなるよう、宿泊施設とサウナを完備する豊かな自然に癒されリフレッシュできる環境が整えられています。

そのひとつの取組として、the campusではクアオルト健康ウォーキングプログラムを実施し、参加者が自然の中で自然療法を基にした健康を促進するサポートを行っています。専門のインストラクターが同行し参加者に適したコースを提案し健康的なライフスタイルを実践できるようアドバイスや情報発信を行っています。将来的には医療設備に留まらず、ヨガインストラクターやスポーツマッサージ、指圧針治療医院などとも連携し、定期的な健康診断や相談会を開催し、参加者の健康管理を持続的にサポートすることで地域全体の健康促進に寄与に貢献するウェルネスリゾートを目指しています。



<https://the-campus.jp/>
●住所：岩手県奥州市江刺稲瀬弘田24-27
●アクセス：JR北上駅より車で15分、北上江釣子ICから車で20分

3) ふくしま浜街道トレイル

青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸を、約1,000kmに及ぶ距離を結ぶ【みちのく潮風トレイル】につながるよう開発された『ふくしま浜街道トレイル』は、福島県の新地町からいわき市までを結ぶ全長約200kmのロングトレイルです。2023年9月30日に、ふくしま浜街道トレイルの沿岸ルートが正式に開通しました。このトレイルは地域の活性化や観光促進を目的として10市町をつなぎ、太平洋の美しい景観や阿武隈山系の豊かな自然を楽しむことができるコースとして設計されています。

コースは10kmから20km単位で分割されており、各セクションには、地元の名所や歴史的なスポットが点在しており、訪れる人々に多様な体験を提供します。また、トレイル沿いには休憩所や観光案内所も設置されており、安心して歩くことができます。

地域の歴史や文化を体験しながら、ハイキングやウォーキングを楽しめるよう、ガイドツアーや地域の特産品を紹介するイベントが開催され、多くの観光客や地元の人々に親しまれています。

ふくしま浜街道トレイルで行っている公式ホームページを軸にした情報発信は、新しいウォーキングプログラムを紹介し、認知向上を進めていく上で、初期段階で着手する業務として参考にできます。

②イメージ画像・動画の制作



①公式ホームページの制作



③マップの公開・SNS発信など



セクションハイキング参考例

コース	距離	スタート	ゴール	所要時間
コース1: 新地駅~相馬駅 32km 1泊2日	Day 1 14km	新地駅 3.1km	磯山展望緑地 2.4km	約1時間30分
Day 2 18km	磯山展望緑地 10.6km	白根のいちろう 7.1km	相馬中村駅 0.6km	約2時間30分
コース2: 相馬駅~鹿島駅 29km 1泊2日	Day 1 16km	相馬駅 1.2km	千客万来館 4.1km	約1時間30分
Day 2 13km	松川川 1.9km	輪ノ廻り 6.3km	大浜海岸 1.6km	約1時間30分
コース3: 鹿島駅~小高駅 32km 1泊2日	Day 1 16km	鹿島駅 2.0km	浪速266 3.0km	約1時間30分
Day 2 16km	原ノ町駅 0.8km	原ノ町公園 10.1km	太田川 5.5km	約2時間30分
コース4: 小高駅~双葉駅 23km 1泊2日	Day 1 12km	小高駅 1.0km	小高神社 5.9km	約1時間30分
Day 2 11km	道の駅なみえ 5.0km	鎌戸漁港 1.0km	鎌戸小学校 3.5km	約1時間30分
コース5: 双葉駅~J-Village 駅 34km 1泊2日	Day 1 18km	双葉駅 5.8km	大野駅 5.4km	約2時間30分
Day 2 16km	富岡駅 11.1km	天神神 2.5km	水戸川 3.2km	約2時間30分
コース6: J-Village 駅~いわき駅 46km 2泊3日	Day 1 16km	J-Village 駅 1.2km	三ツ厩総合公園 1.3km	約1時間30分
Day 2 15km	久ノ浜 0.3km	秋葉神 4.6km	道の駅つらね 6.1km	約2時間30分
Day 3 14km	海城海水浴場 0.7km	塩屋崎 11.5km	三ツ厩公園 2.2km	約2時間30分
コース7: いわき駅~勿来駅 19km 1泊2日	Day 1 9km	いわき駅 1.7km	いわき・ら・ら・む 3.6km	約1時間30分
Day 2 10km	磐前公園 2.7km	磐前大橋 6.6km	勿来の関 1.2km	約1時間30分



1. 目指すべき姿と目標設定

1) (仮称) 仙台市観光戦略2027 ~Into a New Era~に寄せて

策定の趣旨 これまでの枠に捉われない「攻めの観光」を推進していくため、中長期的な視野も踏まえ新たな財源を活用して思い切った投資をしていくことで、観光を基軸とした持続的な地域経済の発展を目指し策定します

達成目標 2027年まで延べ宿泊者数**680万人泊** (国内610万人泊、インバウンド70万人泊)

将来に向けて700万人泊



仙台市内の2023年の宿泊者数は、コロナ禍前の2019年以来4年ぶりに600万人台を回復。そのうちインバウンドは33万人を超え過去最多に。『仙台市観光戦略2027』の達成目標に向け、**インバウンド観光客の宿泊者数を倍増させる戦略のひとつとして「ウォーキングツーリズムの整備促進」を提唱します。**



▲降雪時にも気軽に歩ける仙台市のウォーキングルートは、台湾、香港のからの観光客にとって「特別な体験」になる

『(仮称) 仙台市観光戦略2027の概要』を基にし、仙台市ウォーキング・ツーリズムの推進を考慮しながら、より具体的なアクションプランの方向性を見出します。

視点1 「来てもらう」 旅の目的となる、際立った訴求力のあるコンテンツの創出のひとつとして、仙台市内でのロングトレイルのルート策定を推進します。「しっかり歩く旅」の中で、仙台ならではの歴史・文化・自然といったコアとなる観光資源について深く学び、国内外観光客の憧れる観光都市として、わざわざ訪れたい仙台市を目指します。

視線2 「泊まってもらう」 一日の長い時間をかけて仙台市内を歩く体験の価値を重視し、仙台市でしか味わえない「ここだけ消費」を捉えながら、100万人都市・仙台の賑わいとそのすぐそばにある緑豊かな温泉地の両方が味わえる滞在型旅行の促進を図ります。また、仙台市をベースキャンプとした東北周遊旅行の魅力を発信し、あわせて観光目的以外の来訪者にも大都市のすぐ横にある深い杜を味わえる取り組みに関わります。

視点3 「また来てもらう」 四季折々に表情が変わり、冬には外国人旅行者が憧れる雪の降る仙台市には何度も歩きたくなる数々のウォーキングルートがあります。地元のウォーキング愛好家とのリレーションシップを通じてホスピタリティの向上と交流が深まれば、「また来てくれる」リピーターの獲得につながります。

6つの重点プロジェクト

観光戦略で定義した「3つの視点」を踏まえ推進する「6つの重点プロジェクト」のうち、わたしたちは②Sendai Urban Resortの推進に、仙台市ウォーキングツーリズムが貢献すると考えます。

重点プロジェクト② Sendai Urban Resortの推進

- ▶ 西部エリアの観光スポットの整備を進め、泉ヶ岳等におけるアドベンチャーツーリズムを推進します。
- ▶ 秋保地区や作並・定義地区の滞在環境の整備
- ▶ 東部沿岸エリアにおける新たな体験コンテンツの創出

仙台市グランドトラバース構想 (次項)

これまでのイメージを越えた、観光を基軸とした仙台の成長を目指す

都会に近い大自然。夏も涼しい。公共交通機関が便利。厳冬期でもウォーキングOK！
ターゲットは既存の台湾、韓国に加えて、「世界一歩く・香港人」の誘客に重点

「1～2km、1～2時間のウォーキング」を超えた、仙台市ならではのウォーキングコースの整備へ

2) 仙台市グランドトラバース構想

東北旅行のハブとなる仙台市。ウォーキングツーリズムの促進においても、泉ヶ岳から作並温泉、秋保温泉、蕃山、青葉山をめぐる仙台市をグランドトラバース（大横断）するモデル日程を公表し、登山やロングトレイルの愛好家が立ち寄り「歩ける街・仙台」として誘客の集約と周辺地域との相互交流の体制構築を目指します

■ **モデルコース：** 西部エリアの豊かな自然資源を活かした観光スポットとトレイルの整備を進め、滞在環境の充実を図り、仙台市でもロングトレイルが体験できるアドベンチャーツーリズムの推進に貢献します

Day0	東北のゲートウェイ、仙台へ集合！ ふくしま浜通りトレイル～みちのく潮風トレイルを歩いてきたロングウォーカーは、名取ゆりあげ周辺で宿泊
Day1	藤塚地区から【 東部沿岸コース（みちのく潮風トレイル） 】を歩き、中野栄駅へ。JR仙石線で仙台駅へ。仙台中心部にて宿泊
Day2	大都市仙台を散策し必要な装備や食料などをお買い物。地下鉄と市バスを乗り継いで泉ヶ岳へ。グランピングスタイルの宿泊施設などで、明日からのロングウォークにむけた作戦会議
Day3	泉ヶ岳から ふるさと緑の道 、 黒鼻山山稜 を経て 定義稲荷 へ。大人気のおぶらげを楽しんだ後は、 林道を歩き鎌倉山の麓を経て 作並温泉へ。温泉でゆっくりと旅の疲れを癒します。
Day4	作並駅、ニッカウヰスキー工場を経て ふるさと緑の道 を通り秋保大滝へ。【 秋保コース 】を歩き秋保温泉へ。秋保元湯の街歩きを楽しみ、秋保と作並の泉質の違いに注目
Day5	市バスで愛子駅へ。【 仙台アルプス縦走コース 】を歩き仙台中心部へ戻ります。にぎやかな仙台の街で、ロングトレイル完歩に乾杯！
Day6	東北の様々なウォーキングルートや登山ルートを目指して、歩く旅を続けましょう！



▲作並と定義をつなぐウォーキングルートがあります

■ **構想イメージ：** 東北のどこを旅しても、都市機能と二次交通が充実する仙台市には人が滞在し周辺エリアの回遊の基点です



2. コース確定と誘客に向けてのアクションプラン

1) 仙台市ウォーキングルートは誰が求めているのか？

健康志向の高い旅行者や、地域の文化や歴史に興味を持つ旅行者、また環境問題に関心を持つ多くの旅行者は、ウォーキングツーリズムに魅力を感じています。とは言え、【街歩き・街並み散策】とは似て非なる【ウォーキング】を旅の目的にするヒトの割合はまだまだ少ないのも実情です。仙台市になぜ観光客向けのウォーキングルート（しかもロング・トレイル）が必要なのか。ウォーキングを通じて仙台市の観光誘客をどうPRするか、歩きたい観光客を誘致して仙台市をどう活性するか。具体的な説明ができ、賛同力のある発信ができるアンバサダー（大使役、広告塔）、アジテーター（扇動者）の選出が必要です。

登山・ウォーキングの市場は小規模ではあるものの、個々のつながりは強く、情報共有（口コミ）による伝達は有効です。ウォーキング愛好家に、認知度の高い方に発信を依頼するのが、成功率の高い施策になります。



観光地	2023年認知度	2023年訪問実績	観光の目的	2023年支持率
仙台城跡/青葉城址	61.1%	22.1%	グルメ	38.2%
秋保温泉	68.1%	17.3%	温泉	27.3%
作並温泉	50.3%	6.9%	自然	31.8%
泉ヶ岳	17.9%	3.0%	街歩き	31.7%
			アウトドア	5.4%

出典：令和5年度仙台市観光実態調査

▲ターゲットの見極めが大切

2) ウォーキングルートの現地調査と報告会の実施

ウォーキングルートの開発においては、複数の関係者が協力して現地調査を行うことが重要です。当報告書のコース案を基に、ウォーキング愛好家をはじめ、地域の行政、観光観光関係者、環境保護団体、地元住民などが参加し、ルートの利用状況やニーズを把握します。この現地調査により、地形や景観、利用者の動向、反応などを観察し、ルートの状態や安全性、アクセスの良さを検証し、必要な課題抽出や改善点の特定をします。仙台市ウォーキングルートの魅力や課題を明確にし、地域の特性や文化を理解することで、今後の方針を決定するための基礎となるデータを収集し、トレイルの魅力を引き出すためのアイデアを得ることも進められます。

現地調査によって収集した情報をさらに多くの関係者に報告する会を開催し、情報を共有します。この報告会では、調査結果を基にした課題や改善点を議論し、今後の方針を決定します。また、参加者からの意見をさらに広く集めることで、より多角的な視点を取り入れていきます。

3) 推進方法の提案と地域ワークショップの実施

調査結果を踏まえ、ウォーキングルートの運営に向けた具体的な推進方法を構築します。例えば、ルートの整備計画や利用促進方法の策定、地域とのさらなる連携強化などが考えられます。これにより、仙台市のウォーキングツーリズムの魅力を高め、利用者を増やすことが期待されます。

地域ごとにワークショップを開催し、地域住民や関係者と意見交換を行います。この場では、トレイルの運営に関するアイデアの抽出や懸念事項を共有し、地域の特性を活かしたルートの魅力を引き出して、地域のニーズに合った運営方針を策定します。

ワークショップを通じて得た意見を基に、地域との協議を継続して推進します。地域住民の意見を尊重し、ルート運営に対する地域への効果と貢献への理解を深めることで地域との信頼関係を築きます。このプロセスは、ウォーキングルートの持続可能な運営に向けた重要なステップです。



▲地域の多様な目線から、立場を超えた意見交換が重要

4) トライアルイベント、シンポジウムの開催

地域住民やウォーキング愛好家に向け、仙台市が推進するウォーキングツーリズムの認知度を向上させるため、試験的なイベントを開催します。このイベントでは、参加者にルートの魅力を体験してもらい、意見集約を促します。また、イベントの場では地域の特産品紹介などと連動することで、ウォーキングだけにとどまらない様々な地域の魅力を発信する機会として貢献します。さらにルートの持続可能な運営に関するシンポジウムを開催し、専門家や関係者を招いた議論を行います。このシンポジウムでは、他地域でのウォーキングルート運営の成功事例や課題を共有し、今後の方向性を探ります。また参加者同士のネットワーキングを行い、情報交換の場としながら他地域との連携体制を構築していきます。

またこのイベントの企画運営を「観光教育」を学ぶ学生に一任するのも一案です。地域のイベント企画から、参加者募集、実施までの実践的な学びをすることで、学生は地域の魅力を直接体験し、このような体験を通じて、地域への愛着が深まり観光業界への関心も高まります。ウォーキングツーリズムに限らず、持続可能な観光を推進する人材育成につながります。



▲商業系の高校を中心に「観光教育」の学習は人気が高い山形市立商業高校は、生徒の案内によるウォーキングツアーを実施している

5) 持続可能な運営のための計画策定

地域で集約した意見やアドバイスを基に、ウォーキングツーリズムの持続可能な運営のために、具体的な運営計画を策定します。この計画には、ルートへの整備や管理、利用促進策、地域との連携方法などが含まれます。計画を明確にすることで、関係者の役割が明確になり、円滑な運営を実現します。

運営計画を基に、具体的なアクションプランを示すロードマップを作成します。このロードマップには、短期的な目標と長期的なビジョンを設定し、進捗を管理するための指標を設けます。これによりトレイル運営の進捗を可視化し、関係者の協力を促進します。

さらに地元の方々との勉強会を開催し、ウォーキングツーリズムに関する知識や技術を共有します。この勉強会では、ルートへの管理方法や利用促進策について学び、地域の方々への参加のためのスキルを身につけることができます。



6) ウォーキングルート開通式典と試歩イベントの開催

ウォーキングルートの整備が完了した暁には、開通式典を開催します。この式典では、地域の首長から住民や関係者を招待しルートの開通を祝います。そしてここまで準備に関わった人たちが集い、実際にルート歩くイベントを開催します。これらはウォーキングルートの認知度を高める良い機会となり、地域の活性化に寄与します。合わせてルートの開通を目指したものと異なる、持続可能な運営と認知度向上を目的としたシンポジウムを開催し、ルートへの運営に関する情報を共有します。このシンポジウムでは、ルートへの利用促進策や地域との連携方法について議論し、今後の運営方針を決定します。また、参加者同士の意見交換を通じて、新たなアイデアを生み出す場とし、新たなウォーキングルートの活用を促します。これまでの経過を振り返り、今後の展望を示します。地域の方々や関係者に感謝の意を表し、持続可能なルート運営に向けた取り組みを継続することを公約します。これにより地域との信頼関係を深め、ウォーキングルートを一歩のフックとした仙台市の魅力をさらに高めていくことが期待されます。



7) 重点地域：香港でのプロモーション強化

仙台空港に3つ航空会社が乗り入れている香港には、観光客誘致に向けたプロモーション活動を強化しており、仙台市の魅力を伝える一つのコンテンツとしてウォーキングツーリズムを活用します。香港の旅行会社やメディアとの連携を深め、仙台市のウォーキングコースの魅力を広く伝えるPR活動の取り組みを行います。

香港の旅行会社【Walk Japan】は、日本の知られざる地域（undiscovered regions）を歩くガイド付きのツアーで、主に欧米豪やシンガポール、香港の40～70代の富裕層のお客様が参加しています。仙台ウォーキングツーリズムのコース造成が済み次第、連携した取り組みでインバウンド入込を期待できるでしょう。

またウォーキングを実践でき、仙台市の魅力がPRできるアンバサダーが香港を代表するハイキングコースを訪問し、香港のウォーキング愛好家らと直接的な交流を図ります。香港人に仙台市の興味を引きつけて両地域のウォーキング文化について、相互に理解し合う機会を提供し香港における仙台市ウォーキングツーリズムの認知度向上との来仙客の誘致を促進します。

さらに、香港で人気のある伝統的な祭りや食文化などと一緒に紹介するイベントを通して、仙台市におけるツーリズム全体の魅力をアピールしていきます。2024年には、訪日香港人観光客数が前年比で10-20%増加する見込みです。香港の経済回復とともに、旅行需要が高まることを示唆しています。香港市場の特性を理解し、効果的なプロモーションを行うことで、さらなる成長を目指しましょう。



▲香港の大手旅行会社 EGL Toursは、日本各地へのツアーを企画実施している



▲Walk Japanは30年以上の歴史を持つ、香港に拠点を置く旅行会社で、日本におけるウォーキング・ツアーのパイオニア



▲Hongkong Hiking Meetupは、15年以上の歴史と27,000名の会員を持つ現地の同好会。愛好家へのDMに有効



▲香港政府観光局は現地のアウトドア情報を伝える。ターゲット国の情報を仙台市内で発信することも重要

【参考】在香港インフルエンサー2名を仙台市に招聘する場合の概算費用

(1) 香港インフルエンサー招聘				小計①	2,100,000 円
国際航空券	往復分	150,000 円	2 名	1 会	300,000 円
食事代		30,000 円	2 名	5 日	300,000 円
宿泊代金5泊	1名1室2食	30,000 円	2 名	5 日	300,000 円
国内移動費		50,000 円	2 名	1 式	100,000 円
添乗員・通訳・傷害保険料		100,000 円	1 式	5 日	500,000 円
インフルエンサー手配及びアンケート業務に係る費用		300,000 円	2 名	1 式	600,000 円

8) 仙台市WT・ATビジョン推進体制と役割

ウォーキングツーリズムのビジョン実現には、推進体制の強化が不可欠です。住民、民間事業者、外部関係者、自治体が一体となり、地域の観光資源を最大限に活用することで、持続可能な観光施策の発展が期待されます。

地域住民は観光振興において重要な役割を果たします。地域の文化や歴史を理解し、観光客に対してその魅力を伝えます。また住民が観光活動に参加することで、地域への愛着が深まり、観光資源の保護や活用にもつながります。住民の積極的な関与が、地域の観光振興の基盤を支えます。

民間事業者は観光サービスの提供や商品開発を通じて、地域の観光振興に貢献します。宿泊施設や飲食店、観光施設などが連携し、魅力的な観光プランを提供することで、観光客の誘致を図ります。また、民間事業者が地域の特産品や文化を活かした商品を開発することで、地域のブランド力を高めることができます。

観光振興に関与する地域外の団体や専門家から観光業界のトレンドや最新の情報を提供し、地域の観光戦略に対するアドバイスをを行います。外部の視点を取り入れることで、地域の観光施策がより効果的に進められるようになります。

自治体は、観光振興のための政策を策定し、実施する重要な役割を担っています。地域の観光資源を把握し、観光戦略を立案することで地域の魅力を最大限に引き出します。また観光関連のインフラ整備やイベントの開催を通じて、観光客の誘致を図ります。

今後は、持続可能な観光の実現に向けた取り組みが重要です。仙台市の環境や文化を守りながら観光業を発展させるためには、関係者全員が協力し合うことが求められます。仙台市の特性を活かした観光施策を展開し、観光客にとって魅力的なウォーキングプログラムを提供することが、仙台市の発展につながります。

東北におけるアフターコロナ ＝アドベンチャーツーリズム (AT)

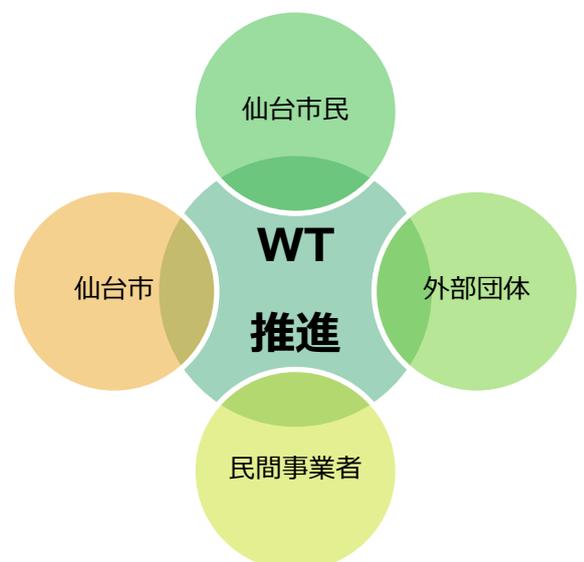
●2025年秋 「アジア・トレイル・カンファレンス (ATC)」宮城で2025年11月開催決定

アジア各国のウォーキング団体や観光組織などでつくる「アジア・トレイルズ・ネットワーク (ATN)」が主催する国際的ウォーキングイベント「アジア・トレイルズ・カンファレンス」が2025年11月、宮城県で開催されることが決まった。世界各地から約2000人が集まり、県内の観光トレッキング「宮城オルレ」を歩くイベントを楽しむ。

●2025年秋 東北にてAdventure Weekを開催

日本政府観光局 (JNTO) は、世界最大のアドベンチャー・トラベル業界団体「Adventure Travel Trade Association (ATTA)」と連携し、2025年秋頃に東北エリアにて「Adventure Week」を開催することを決定した。

「Adventure Week」とは、Adventure Travel Trade Association (ATTA) が定める基準を満たした特定の地域において、ATTA が厳選した旅行会社メディア関係者が実際に開催地のアドベンチャー・トラベル (AT) 商品を体験し、地域との商談会を通じて、商品のさらなる磨き上げを目的としたプログラムで、日本では2024年11月に開催された沖縄県に続いて2回目の開催となる。



東武トップツアーズ

